

## 【10】 アジア初演「歓喜の歌」

なぜ徳島が「第九」アジア初演の地となったのだろうか、その歴史的背景を説明しよう。



ベートーヴェン  
「第九」交響曲演奏会  
(NPO法人鳴門「第九」  
を歌う会)

「第九」の歌詞はドイツの詩人シラー(1759~1805)によって書かれました。ドイツ語の歌詞の意味を学んで一緒に歌いましょう。



### ★歌詞(一部抜粋)

Freude, schöner Götterfunken,  
Tochter aus Elysium,  
Wir betreten feuertrunken,  
Himmlische, dein Heiligtum!

Deine Zauber binden wieder,  
was die Mode streng geteilt;  
alle Menschen werden Brüder,  
wo dein sanfter Flügel weilt.  
...

### (日本語訳)

喜びよ、美しい神々の閃光、  
エリジウム楽園から来た娘、  
我らは情熱に酔って、至福の、  
貴方の聖なる領域に入る。  
世の変遷によって切り分けられた  
全てのものは、貴方の魔法のような力で  
再びに結びあわせられる、  
貴方の温厚な翼の下にいる人々は  
皆兄弟になる。

## 鳴門市の「第九」は6月開催

ベートーヴェン作曲の交響曲第9番ニ短調作品125は、「第九」の呼び名で多くの人に親しまれ、年末の12月になると日本各地で演奏会が開かれています。

徳島県でも、鳴門市で毎年6月に「第九」の演奏会が開かれています。では、ほとんどの地域が年末に開催されているのに対し、鳴門市では、なぜ6月に開催されるのでしょうか。その理由については、日本における「第九」の演奏の歴史とそれにまつわるエピソードが関係しています。

「第九」交響曲の初演は、1824年オーストリアのウィーンで行われました。アジア・日本で初めて全曲が演奏されたのは、それから94年後の1918(大正7)年6月1日とされています。この「第九」交響曲アジア・日本初演の地が、板東俘虜収容所があった徳島県板野郡板東村(現在の鳴門市大麻町)だったのです。鳴門市では、この日を記念し、6月1日を「第九の日」と定め、毎年6月の第一日曜日に演奏会を開催するようになりました。

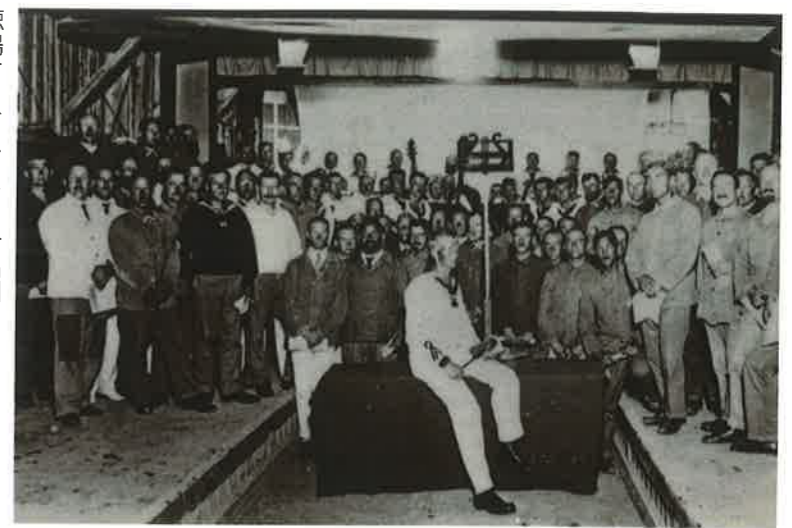
## 「徳島オーケストラ」

板東俘虜収容所には、エンゲル二等海兵が指揮する「エンゲル・オーケストラ」と、ハンゼン軍楽兵曹の指揮する「徳島オーケストラ」、吹奏楽を中心とする「シュルツ・オーケストラ」がありました。このうち、記念すべき日本・アジア「第九」全曲の初演を行ったのは「徳島オーケストラ」でした。「徳島オーケストラ」は、もともとは、1914(大正3)年に、現在の徳島県庁の敷地内に仮に設置された徳島俘虜収容所内で結成された楽団でした。徳島俘虜収容所の新聞「徳島新報1号」に、俘虜の一人が徳島市内の楽器店にギターを注文したところ、間違っってチェロを持ってきたことがオー



ベートーヴェン「第九」交響曲全曲  
コンサートプログラム表紙(鳴門市ドイツ館所蔵)  
1918(大正7)年6月1日開催

徳島オーケストラと合唱団  
(鳴門市ドイツ館所蔵)



ケストラの始まりになったとエピソードを紹介しています。また、足りなかった楽器が市民から寄附されたことも記されています。徳島オーケストラ結成には、ドイツ兵俘虜と徳島市民との友好的な交流があったことが分かります。徳島俘虜収容所は1917(大正6)年4月の板東俘虜収容所開設に伴って閉鎖されましたが、徳島オーケストラは板東へ移った後も収容所内外で活発な演奏活動を続けました。

## 「第九」アジア・日本初演

徳島オーケストラによる「第九」全曲演奏は、1918(大正7)年6月1日に、収容所内の「バラック(兵舎)」1号棟の講堂で行われました。「第九」が作曲された1824年頃には、交響曲に人の声を加えることはどうも考えられないことであったといわれます。しかし、ベートーヴェンはあえて終楽章に合唱を組み込むという冒険に挑み、大成功を収めました。板東俘虜収容所内での演奏に際しても、4月以降、合唱団との入念な合同練習、前日31日の公開リハーサルと、周到な準備が行われました。この時の公演のプログラムが鳴門市ドイツ館に現在も残されています。これによると、合唱団は80名、独唱者4名は全員男性でした。本公演は、6月1日の夕方6時30分から行われたことが分かります。

## 世界に人類愛を発信する「なると第九」

この「第九」アジア初演から70年近くを経た1982年、鳴門で、第1回「第九」交響曲演奏会が盛大に開催されました。その後、この演奏会は、国内外の参加者も増え、日本を代表する「第九」演奏会として、板東俘虜収容所が育んだ人類友愛の精神を世界に発信し続けています。



ベートーヴェン「第九」演奏会  
「世界に広がれ!とくしま歓喜の歌」  
プロジェクト(2016.1.30)



ベートーヴェン「第九」演奏会の  
パンフレット